

## 藤井美知子先生の定年退職にあたって

本センター元教授藤井美知子先生は平成 27 年 3 月末をもって本学を定年退職されました。

藤井美知子先生は、昭和 43 年 3 月に山口県宇部市にある宇部短期大学(現 宇部フロンティア大学短期大学部)の工業計数学科(当時としては先駆的な電算機を取り扱う学科、平成 10 年 4 月情報システム学科)を卒業され、昭和 45 年 4 月に同学科の助手補助員に着任されました。昭和 48 年 4 月同助手、昭和 54 年 4 月同講師、昭和 63 年 4 月同情報計数学科助教授、平成 9 年 11 月同情報システム学科教授を経て、平成 19 年 10 月に長崎大学大学教育機能開発センターの全学教育部門に情報教育担当として着任されました。その後、平成 23 年 5 月に情報メディア基盤センター(現 ICT 基盤センター)へ異動されました。平成 3 年 10 月から約 15 年間、山口大学の非常勤講師としても教育に携わっておられ、平成 13 年 3 月に日本大学大学院から修士(人間科学)を授与されました。

研究では、短期大学時代から日々の教育に反映できることを重視して、教師の授業を支援するシステムの開発や学生が授業を理解しやすくするための学習支援に関する課題に取り組んでこられました。これらをテーマに研究代表者として科学研究費の五つの課題が採択されています。一方、長崎大学時代には科学研究費の審査委員を3年間務められました。

藤井美知子先生は、計 45 年間(昭和 45 年～平成 27 年)に渡って情報教育に携われたこととなります。タイガー手廻計算器、汎用機、パソコン(TK-80、PET2001、PC-9801)、ワークステーション等の利用経験を踏まえて、機械語、アセンブラ、Algol、COBOL、FORTRAN、C、その他様々な言語でのプログラミング教育を実現されました。昭和 61 年には学生実習における授業支援への PCSCAI オーサリングシステムの活用を試みられました。本学では、情報系教養教育における授業改善に多大な貢献をしていただきました。

藤井美知子先生からメッセージをいただいていますので、以下にご紹介いたします。

元大学教育機能開発センターの教職員の皆様、情報メディア基盤センターの岡林隆敏センター長(前)、松田浩センター長(前)、ICT 基盤センターの村田嘉弘センター長をはじめとし、野崎剛一先生、丹羽量久先生、上繁義史先生、古賀掲維先生、柳生大輔先生他、学術情報部の皆様には大変お世話になりました。

長崎は観光都市としてもとても魅力的でした。情報関連学会の情報教育に関する研究集会を長崎市でいくつか引き受けることとなり、各地から参加された先生方に観光地としての長崎も楽しんでいただいていたことの良い思い出です。定年退職後は長男の家のある福岡県福津市に居を構え、大学勤務中には充分にはできなかった料理や家事に初心に戻って取り組んでいます。成果はまだですが、なんとか鍋を焦がさない程度には上達してきています。生まれ育った山口県宇部市から初めて市外に居住した長崎での 7 年半は私にとって一生の思い出です。長崎大学の皆様のますますのご活躍を祈念し、心よりお礼申し上げます。